

## 小野修一の経営お役立ちコラム 第11回

### ● 中小企業こそ IT 経営で経営革新を

IT 経営という言葉が広く使われるようになりました。

経済産業省は IT 経営を“経営・業務・IT の融合による企業価値の最大化を目指すこと”と定義しています。

また、IT コーディネータ協会は IT 経営推進プロセスガイドラインの中で“経営環境の変化を洞察し、戦略に基づいた IT の利活用による経営改革により、企業の健全で持続的な成長を導く経営手法”と定義しています。

いずれの定義においても、経営戦略を明確にした上で、その経営戦略の実現のために効果的な IT 導入、利活用を進めることの意義を表しています。

IT というと大企業のこと、中小企業では取組みが難しい、と思込む傾向があります。それは間違いで、中小企業こそ、IT 経営の実践によって競争力向上、競合他社との差別化を図ることができるのです。

IT 経営は IT 化ではありません。経営革新のために IT を効果的に使うということ、自社のあるべきビジネスモデルを、IT 利活用を含めた取組みによって実現することです。高価な IT 製品を導入することではありません。すべての業務を IT 化することでもありません。経営戦略を明確に設定し、その経営戦略を実現するための業務改革への取組みの中で IT を活用することが効果的と判断した領域で IT 導入、IT 利活用に取り組みます。

そうした IT 経営を実践するためには、プロセスが重要です。IT 経営推進プロセスをまとめたものが、IT コーディネータ協会が作成した『IT 経営推進プロセスガイドライン』です。このガイドラインをベースに、各企業の実態に合わせた効果的な IT 経営の進め方を構築することが重要です。そうした中小企業の IT 経営の取組みを支援する存在が IT コーディネータです。経営者の皆様には、IT 経営の意義を認識され、必要であれば IT コーディネータを活用して、IT 経営を実践されることをお勧めします。